

## 提言

# 「筑後圏が持続的に発展するための 2つのビジョンと9つの提言」

- ビジョン1 文化の薫り高く、住み心地の良いコンパクトシティ久留米を形成する
- ビジョン2 広域連携による筑後圏の一体的発展を目指す

平成19年7月

福岡経済同友会 筑後部会

## はじめに

筑後圏を取り巻く状況は、経済のグローバル化・規制緩和による競争の激化、人口減少・少子高齢化の進行、財政の悪化、さらには地域産業の停滞など、年々厳しさを増している。また、筑後圏の中心である久留米市の中心市街地は、九州の他の主要都市より空洞化、衰退の度合いが著しい。

こうした中、2011年には九州新幹線が全線開業する予定である。鳥栖を含めた筑後圏には、新鳥栖、久留米、船小屋、新大牟田の4つの駅が開設される。九州新幹線全線開業を機に、筑後圏は新しい展望を描き、福岡都市圏、北九州都市圏に並ぶ県下三番目の都市圏として、基盤を確立する時期に来ている。このことは、将来の道州制下における強固な基礎自治体の形成にもつながる。

そこで、福岡経済同友会筑後部会では、筑後圏の発展と活力強化を目指して「筑後圏が持続的に発展するための2つのビジョンと9つの提言」をまとめた。2つのビジョンとは、

**ビジョン1「文化の薫り高く、住み心地の良いコンパクトシティ久留米を形成する」**

**ビジョン2「広域連携による筑後圏の一体的発展を目指す」**

である。

ビジョン1では、筑後圏の中心である久留米市に焦点をあてる。筑後圏の活性化は、その中心都市である久留米市の活性化と表裏一体である。久留米市が筑後圏全体の発展を牽引するには、衰退が進む中心市街地の再生が必要である。教育、医療、食など住環境として高いポテンシャルを持つ久留米の特色を活かし、中心市街地に文化的で住み心地の良いコンパクトシティをつくることを提案する。

ビジョン2では、筑後圏の広域連携をテーマに掲げる。先に述べた厳しい環境の中で、筑後圏が持続的な発展を遂げるためには、広域連携を強化し、一体的発展を目指すことが不可欠である。行政、地元住民、経済団体、商工業者、交通事業者、医療・福祉施設、NPOなど地域の多様な主体が連携して、地域全体の発展のための施策に取り組むべきである。さらに、将来的には県境を越えた市町村合併をも視野に入れた強固な基礎自治体“大筑後圏”を目指したい。

筑後圏の発展のために、この提言が少しでも役立てば幸いである。

最後に、この提言をまとめるにあたって、勉強会にて講師を務めていただいた先生方、ヒアリングにご協力いただいた皆さまに対し、厚く御礼を申し上げます。

平成19年7月

福岡経済同友会

代表幹事 石原 進

代表幹事 芦塚日出美

代表幹事 西村 韶道

筑後部会

部会長 井手 和英

副部会長 二又 大榮

副部会長 木下 茂

# 「筑後圏が持続的に発展するための2つのビジョンと9つの提言」

## 目 次

### I 要 約

1. 筑後圏の現状～4つの問題～	5
2. 筑後圏を発展させるための4つの課題	5
3. 具体的提言	6

### II 提言本文

#### 第1章 筑後圏の現状～提言の背景～

1. 急激な空洞化が進む久留米市中心市街地（久留米市）	10
2. 中心市街地の発展を阻害する交通網（久留米市）	10
3. 人口減少・少子高齢化の進行と財政状況の悪化（筑後圏全体）	12
4. 地域経済を支えてきた産業の停滞（筑後圏全体）	14

#### 第2章 筑後圏を発展させるための課題

1. 久留米市中心市街地の再生の道を探る	15
2. 人に優しい都市交通を目指す	15
3. 人口減少・少子高齢化への対応策を早急に示す	15
4. 筑後圏のポテンシャルを最大限に活用する	15

#### 第3章 提 言

##### ビジョン1 文化の薫り高く、住み心地の良いコンパクトシティ久留米を形成する ～筑後圏の発展を牽引する力強い中核都市を目指す～

提言1 居住環境・生活環境を充実させる	18
提言2 中心市街地の賑わいを創出する ～久留米の生活文化を活かしたまちづくり～	20
提言3 楽しく歩ける都市、回遊性の高い都市を実現する	22
提言4 住みよいまち久留米のPRを強化する	25

##### ビジョン2 広域連携による筑後圏の一体的発展を目指す

提言5 企業誘致や地場企業の新規分野への参入促進に取り組む	26
提言6 高度医療地域・健康地域を形成する	27
提言7 地域一体で農水産業を推進する	28
提言8 伝統・文化の連携に取り組む	28
提言9 将来構想として大筑後圏を目指す～道州制を視野に入れる～	29

# I 要約

## 筑後圏が持続的に発展するための2つのビジョンと9つの提言

### 筑後圏の現状～4つの問題～

- ①急激な空洞化が進む久留米市中心市街地（久留米市）
- ②中心市街地の発展を阻害する交通網（久留米市）
- ③人口減少・少子高齢化の進行と財政状況の悪化（筑後圏全体）
- ④地域経済を支えてきた産業の停滞（筑後圏全体）



### 筑後圏を発展させるための4つの課題

- ①久留米市中心市街地の再生の道を探る
- ②人に優しい都市交通を目指す
- ③人口減少・少子高齢化対応のまちづくり策を早急に示す
- ④筑後圏のポテンシャルを最大限に活用する



## 筑後圏を発展させるための提言(2つのビジョン)

### ①強固な中核都市の形成(久留米市)

#### ビジョン1 文化の薫り高く、住み心地の良いコンパクトシティ久留米を形成する ～筑後圏の発展を牽引する力強い中核都市を目指す～

- 提言1 居住環境・生活環境を充実させる
- 提言2 中心市街地の賑わいを創出する  
～久留米の生活文化を活かしたまちづくり～
- 提言3 楽しく歩ける都市、回遊性の高い都市を実現する
- 提言4 住みよいまち久留米のPRを強化する

### ②域内市町村の広域連携(筑後圏全体)

#### ビジョン2 広域連携による筑後圏の一体的発展を目指す

- 提言5 企業誘致や地場企業の新規分野への参入促進に取り組む
- 提言6 高度医療・健康地域を形成する
- 提言7 地域一体で農水産業を推進する
- 提言8 伝統・文化の連携に取り組む
- 提言9 将来構想として大筑後圏を目指す～道州制を視野に入れる～

この提言で述べる筑後圏とは、久留米市、小郡市、大刀洗町、うきは市、大川市、大木町、筑後市、八女市、広川町、星野村、立花町、黒木町、矢部村、柳川市、大牟田市、みやま市の福岡県南部の16市町村を表す。 **巻末・参考1 35 ページ**

## 1. 筑後圏の現状～4つの問題～

- ①急激な空洞化が進む久留米市中心市街地（久留米市）
  - ・人口の郊外化、車社会の進展、郊外型ショッピングセンターの出店などの影響で、久留米市中心市街地は空洞化の進行が深刻な問題となっている。
- ②中心市街地の発展を阻害する交通網（久留米市）
  - ・市街地中心部を走る広域産業道路、歩道の未整備、中心市街地の南北交通の弱さといった交通の諸問題が、筑後圏の中心である久留米の魅力を損なわせている。
- ③人口減少・少子高齢化の進行と財政状況の悪化（筑後圏全体）
  - ・人口減少・少子高齢化により、市場の縮小や労働者不足といった経済分野に影響を及ぼすほか、地方財政の悪化にも拍車をかけている。
- ④地域経済を支えてきた産業の停滞（筑後圏全体）
  - ・筑後圏の農業は、九州でもトップクラスの生産高を誇っているが、それだけに輸入農産物の影響を受けて伸び悩んでいる。また、これまで地域の発展を支えてきたゴム産業や家具産業などの主力工業や、緋・和紙などの伝統産業も停滞している。

## 2. 筑後圏を発展させるための4つの課題

1章で述べた現状の問題点を解決し、筑後圏を持続的に発展させるために、以下の4つに取り組みなければならない。

- ①久留米市中心市街地の再生の道を探り、久留米市を「筑後圏の発展を牽引する強固な都市」へと成長させる。
- ②中心市街地の歩道整備と公共交通機関の強化に取り組み、人に優しい都市交通を目指す。
- ③子育てしやすい環境づくり、女性が働きやすい環境づくり、高齢者が安心して暮らせる環境づくりなど、人口減少・少子高齢化への対応策を早急に示す。
- ④筑後圏のポテンシャルを最大限に活用する。
  - (1) クロスロード地域としての産業立地の優位性
  - (2) 集積度の高い高等教育機関
  - (3) 豊かな伝統・文化
  - (4) 福岡都市圏への近接性

### 3. 提言

#### ビジョン1 文化の薫り高く、住み心地の良いコンパクトシティ久留米を形成する ～筑後圏の発展を牽引する力強い中核都市を目指す～

筑後圏が持続的発展をしていくためには、中心となる久留米市が、筑後圏を牽引する力強い中核都市へと発展していかなければならない。そのためには、衰退が進む久留米中心市街地に魅力ある都心機能を復活させ、コンパクトシティとして再生させる必要がある。教育、医療、食など住環境として高いポテンシャルを持つ久留米の特色を活かし、中心市街地に文化的で住み心地の良い空間をつくることを提案する。

#### 提言1 居住環境・生活環境を充実させる

住み心地の良いコンパクトシティを形成するために、久留米市には中心市街地の居住環境・生活環境の重点的な整備を求めたい。

- ①久留米中心市街地を「職住一致の場」および「福岡や筑後圏の各都市への通勤圏」と位置付け、中心市街地へのマンション建設の促進、周辺地域への雇用の場の創出に努める。
- ②ファミリー層が暮らしやすい快適な都市空間をつくるために、娯楽施設・スポーツ施設・スーパーなど多種多様なサービスを中心市街地に誘導するとともに、ウォーキング・コンサート・お祭りなど都市型イベントの充実を図る。さらに、企業の子育て支援として、福岡県地域福祉財団が実施している「子育て応援の店」推進事業への加盟店を増やす。
- ③高齢者が快適に暮らせるまちをつくるため、介護施設や高齢者用介護サービス付きマンションの建設促進、訪問販売・宅配販売など高齢者をターゲットにしたビジネスへの企業の進出促進、駅やまちなかにおけるバリアフリー化の徹底、中心市街地の商店街で取り組まれている全国有数規模のタウンモビリティ事業の活性化などに取り組む。
- ④留学生にとっても住みよいまちづくりとして、久留米市、久留米大学、経済団体などが連携してコンソーシアムを立ち上げ、地域一体で留学生を支援する。

#### 提言2 中心市街地の賑わいを創出する ～久留米の生活文化を活かしたまちづくり～

西鉄久留米駅、六ツ門地区、JR久留米駅の三箇所を賑わいの拠点として位置付け、まちを整備することを提案する。

- ①文化の薫り高い都市を実現するために、中心市街地に筑後圏の拠点施設となる収容人員3,000人規模の大型文化ホールや、大規模な学会・見本市・展示会などを開催するためのコンベンションセンターを建設する。
- ②六ツ門地区を筑後圏の食の産業、食の文化の発信拠点とし、ラーメン・焼き鳥・うなぎのセイロ蒸しなど地元の名物料理店を集積するほか、地元客をターゲットにした「都市型“道の駅”」を開設し、青空市場による筑後地域の新鮮な野菜や果物などの販売を行う。
- ③西鉄久留米駅前を知の集積拠点と位置付け、都心部への図書館の開設や、高度医療都市久留米の特色を活かした市民向け公開講座の実施に取り組む。

- ④九州新幹線全線開業に合わせてJR久留米駅前を伝統・文化・地場産業のPR拠点と位置付け、筑後地域の産業文化のPRセンターを設置する。具体的には、タイヤ・ゴム靴・久留米餅・八女茶などの地場製品の展示や、筑後地域の伝統工芸品の工房、体験教室、販売所を開設する。また、久留米駅の駅中に筑後圏の地酒・焼酎のショットバーを開設し、地酒・焼酎を観光客にPRするとともに、地元の人も気軽に足を運べるような交流の場にしていく。

### 提言3 楽しく歩ける都市、回遊性の高い都市を実現する

- ①久留米市は自然環境、歴史遺産、伝統文化に恵まれており、市や観光協会が様々な散策マップを発行しているが、歩道が整備されずに歩行者の安全が保たれていない地区が多い。市民や観光客が中心市街地を楽しく快適に歩けるよう、久留米市には歩道の整備や自転車道路の整備を進めてもらいたい。特に早急に整備して欲しい場所として、西鉄久留米駅～石橋文化センターへの歩道を挙げる。既に久留米市でも整備計画を立てているが、早期実現をお願いする。
- ②高齢化が進むにつれて、日常生活において自家用車を使用できない人が増えていく。公共交通機関の利便性を高めて、自家用車依存度の低下を促進する必要がある。自家用車依存度を低下させることは、久留米が長年抱える渋滞の緩和や、環境にやさしいまちづくりとして有効である。具体的には、コミュニティバスとベロタクシー（自転車タクシー）の導入を提案する。

### 提言4 住みよいまち久留米のPRを強化する

住環境のポテンシャルが高い久留米市の住みやすさをアピールして移住を呼び込む。その際、人口当たりの保育所数や医師数など具体的に久留米の住みやすさを表す指標を数値化してPRことを提案する。

久留米市の住みやすさを表すための指標（例）

	久留米市	福岡市	福岡県	全国
消費者物価指数	97.4	102.7	97.9	100
人口1万人当たり保育所数	2.16	1.18	1.73	1.76
高校進学率(%)	98.6	95.7	96.8	97.4
大学進学率(%)	68.3	49.8	45.2	45.3
人口10万人当たり医師数	500.3	335.7	268	211.7
農業産出額	県内1位			

出典：久留米市統計書、福岡市統計書、日本統計年鑑（すべて平成17年度）



## **ビジョン2 広域連携による筑後圏の一体的発展を目指す**

生産年齢人口の減少と厳しい財政制約の下で、筑後圏が持続的に発展していくためには、各市町村単位ではなく、広域連携による一体的発展を目指すことが不可欠である。筑後圏が一体となると、人口 87 万人、GDP 2兆4千億円、1次産業生産高 825 億円（福岡県全体の約 54%に相当）を有する規模になる。将来的には県境も越える市町村合併を進め、強固な基礎自治体“大筑後圏”を目指したい。

## **提言5 企業誘致や地場企業の新規分野への参入促進に取り組む**

筑後圏の持つ技術力や人材を活かし、地域一体となったIT・自動車産業の部品メーカーの誘致、IT・自動車・バイオ・環境などの分野への地場企業の参入促進に取り組む。

## **提言6 高度医療・健康地域を形成する**

- ①「久留米広域小児救急センター」事業（久留米、小郡、大刀洗、うきは、大川、大木の6市町が加盟し、広域での小児科夜間救急診療サービスを実施）を筑後圏一体に拡大する。また、小児科に次いで産科の分野でも救急医療体制を始める。
- ②筑後圏の「医療機関の集積」、「豊富な農産物」といった強みを活かして医療・健康の啓発や食育に取り組み、「健康地域筑後」を目指す。

## **提言7 地域一体で農水産業を推進する**

- ①農業の組織化・機械化の促進および農産物の筑後ブランド、水産物の有明ブランドの構築に取り組む。ブランド化した高付加価値商品は、菓子メーカーや食品メーカーとタイアップしたり、アジア諸国への輸出につなげたりする。
- ②筑後圏の農産物直売所が広域で連携、ネットワーク化を強化し、地域農業の一体的発展を目指す。また、九州新幹線の全線開業に合わせて、筑後圏が一体となって地元の特産物を使用した駅弁や銘菓の新たな開発を行う。

## **提言8 伝統・文化の連携に取り組む**

- ①若手伝統工芸家の異業種交換会やマッチングの場を市町村や商工会議所が設け、新たな連携、協働を実現させる。
- ②筑後圏の各市町村で行われるイベント、祭りを筑後圏全体でPRする。

## **提言9 将来構想として大筑後圏を目指す～道州制を視野に入れる～**

道州制を視野に入れ、筑後圏の市町村がベクトルをひとつにして道州制移行のための条件整備と基盤づくりを行う。久留米市・小郡市・鳥栖市・基山町で構成する「筑後川流域クロスロード協議会」が牽引役となって、「大筑後圏構想」を打ち出す。

## II 提言本文

## 第1章 筑後圏の現状～4つの問題～

この提言で述べる筑後圏とは、久留米市、小郡市、大刀洗町、うきは市、大川市、大木町、筑後市、八女市、広川町、星野村、立花町、黒木町、矢部村、柳川市、大牟田市、みやま市の福岡県南部の16市町村を表す。 **巻末・参考1 35 ページ**

### 1 急激な空洞化が進む久留米市中心市街地(久留米市)

筑後圏の中核である久留米市の中心市街地は、人口の郊外化、車社会の進展、郊外型ショッピングセンターの出店などにより急激に空洞化が進んでいる。中心市街地の商店街である一番街の休日一日当たりの歩行者通行量を見てみると、1996年の20,857人から2006年には5,029人と10年間で約四分の一に激減している(図表1)。

また、中心市街地における平日を含めた公共交通機関の利用者は、1991年から2003年までの12年間でJR久留米駅が3%減、西鉄久留米駅が27%減、市内バスが57%減と、それぞれ減少している。こうした減少も、中心市街地の空洞化に拍車をかけている(図表2)。

そして、このような歩行者や移動者の減少は、中心市街地の経済活動にも影響を与えている。久留米市中心市街地の空き店舗率を見ると、1996年の6.0%から2006年の19.5%へ3倍以上に増えている。特に2002年から2006年にかけては4年間で空き店舗率が12ポイントも増加するなど、近年の衰退は著しい(図表3)。さらに、中心市街地における商業集積地区内の小売販売額を見ると、久留米市では1997年から2002年までに約400億円(37.6%)も減少している。これは佐賀市、鹿児島市と並んで九州の中でも大きな減少幅である(図表4)。

このように、筑後圏の核となるべき久留米市中心市街地は、急速な空洞化によって危機的状況にあり、都市機能が衰退しつつある。

### 2 中心市街地の発展を阻害する交通網(久留米市)

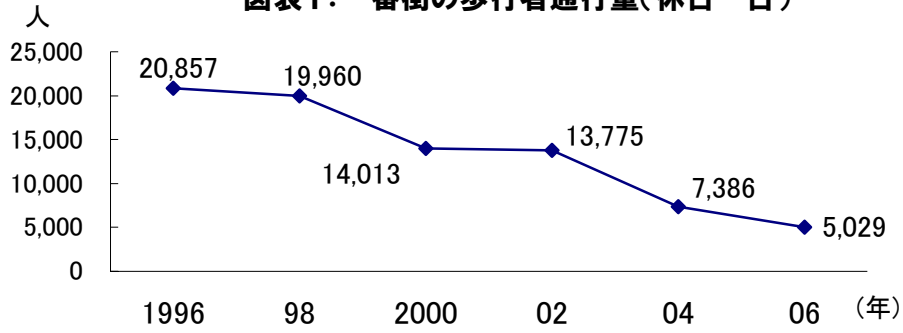
道路・交通の諸問題も、筑後圏の中心久留米の魅力を損なわせている。

第一の問題は、国道3号線、209号線、210号線、264号線、322号線などの広域産業道路が市街地中心部を走っていることである。交通量の多さが、市民生活の快適性や安全性を脅かすことにもつながっている。

第二は、歩道の未整備である。中心市街地には狭い歩道、傾き・段差のある歩道が多く、安心・安全が保たれていない。歩行者に優しいまちとは言えず、都心の魅力を損なっている。

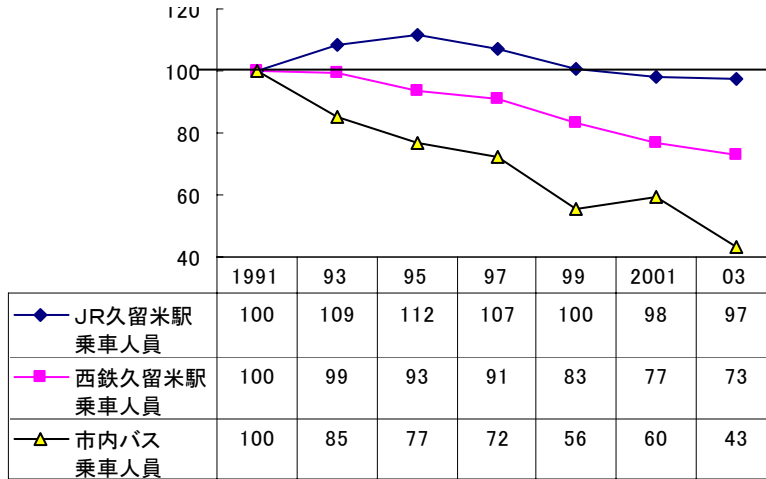
第三は、中心市街地の南北交通の弱さが挙げられる。中心市街地のバス路線を見てみると、六ツ門、市役所を経由する西鉄・JRの両久留米駅間を結ぶ東西の便数は多いが、久留米警察署前、本町、聖マリア病院前などへ向かう南北の便数が少ない。マイカーの普及によるバス利用者離れが進み、便数削減、路線の統廃合が行われたからである。その結果、高齢者など車を使用できない人にとっては、中心市街地の南北の移動が大変不便である。

図表1：一番街の歩行者通行量(休日一日)



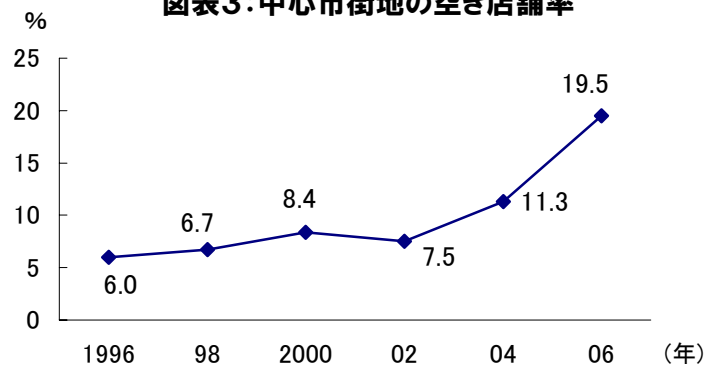
資料：久留米市

図表2：久留米市の駅、バス乗車人数の推移(1991年を100とした場合)



出典：「久留米市統計書」

図表3：中心市街地の空き店舗率



資料：久留米市

**図表4: 中心市街地における商業集積地区内小売販売額**

(単位: 百万円、%)

	小売販売額		増減率
	1997年	2002年	
久留米市	106,396	66,346	△37.6
福岡市	554,539	472,468	△14.8
北九州市	380,536	281,443	△26.0
佐賀市	73,795	47,242	△36.0
長崎市	154,251	157,490	2.1
佐世保市	85,682	62,522	△27.0
熊本市	205,593	170,966	△16.8
大分市	145,092	109,824	△24.3
宮崎市	66,738	50,336	△24.6
鹿児島市	184,337	98,137	△46.8
那覇市	99,995	81,764	△18.2
下関市	77,090	60,783	△21.2

出典: 経済産業省「商業統計表」

### 3 人口減少・少子高齢化の進行と財政状況の悪化(筑後圏全体)

ここまで主に筑後圏の中心である久留米の現状を述べたが、筑後圏全体に目を向けると、人口減少・少子高齢化や財政状況の悪化といった大きな問題を抱えている。

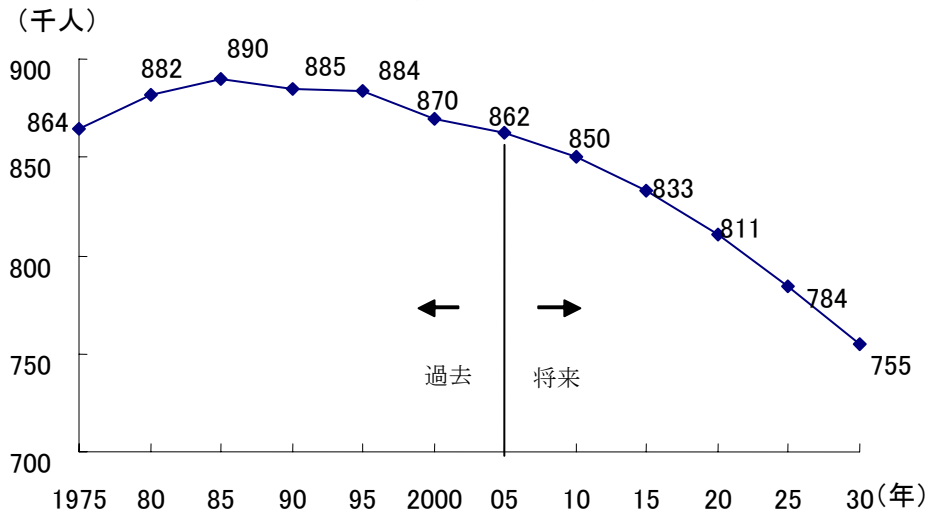
わが国の人口は厚生労働省の人口動態統計によると2005年から減少に転じたが、筑後圏では全国より20年も早く1985年をピークに減少を続けている。今後その流れは加速し、2030年には、2005年現在の86万2千人から75万5千人まで減ると予測されている(図表5)。

同時に少子高齢化も深刻な事態を迎える。今後の筑後圏の人口を年齢構成別に見ていくと、生産年齢人口(15歳~64歳)および年少人口(14歳以下)は減少するが、老年人口(65歳以上)は増加する。2030年には老年人口が23万4千人となり、全人口の約31%の割合を占めることとなる(図表6)(図表7)。

こうした人口減少・少子高齢化は市場の縮小や労働者不足といった経済分野に影響を及ぼすほか、地方財政の悪化にも拍車をかける。筑後圏では全国同様、市町村合併を実施して行政の効率化を進めているが、財政は厳しく地方債は年々増加している(図表8)。

今後は、生産年齢人口の減少に伴う税収の減少や高齢者の介護費用の増加などにより、地方財政はさらに厳しいものになると予測される。効率的かつ効果的な行政サービスのあり方がますます強く求められ、少ない予算で住民を満足させるまちづくりが不可欠となる。

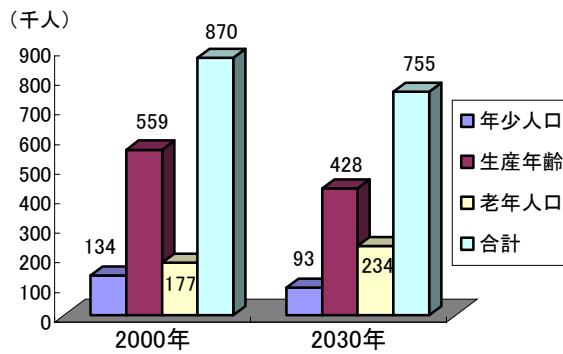
図表5: 筑後圏の人口推移



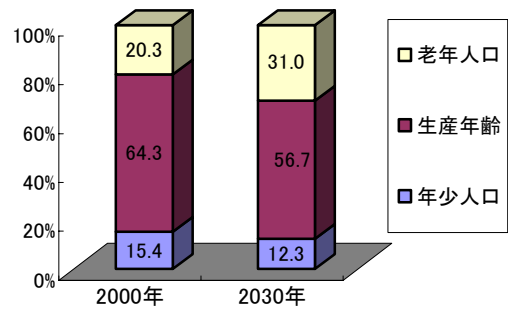
出典：市町村別住民基本台帳

国立社会保障・人口問題研究所「日本の市町村別将来推計人口の概要」

図表6: 筑後圏の将来人口(年齢別)



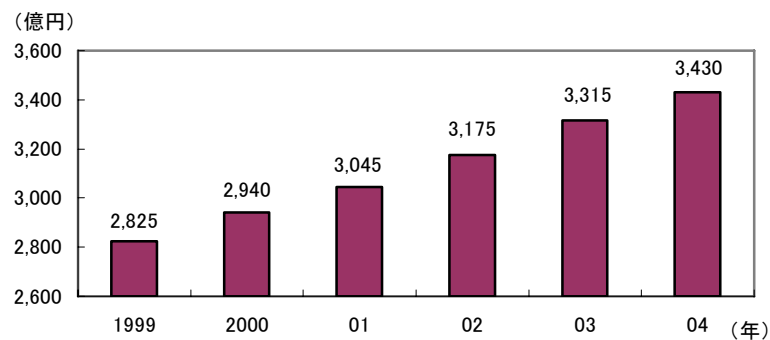
図表7: 筑後圏の年齢別人口割合



出典：「日本の市町村別将来推計人口の概要」国立社会保障・人口問題研究所

平成 15(2003)年 12 月推計

図8: 筑後圏の地方債残高の推移



出典：「地方財政状況調査(決算統計)」福岡県

#### 4 地域経済を支えてきた産業の停滞(筑後圏全体)

筑後圏の停滞要因の一つに産業の衰退ないしは伸び悩みがある。農業は九州でもトップクラスの生産高を誇るが、それだけに輸入農産物の影響を強く受けており、産業としての牽引力になりきれていない。

また、製造業については、ゴム産業・家具などこれまで地域の発展を支えてきた主力工業が停滞しており、緋・和紙などの伝統産業の衰退も著しい。例えば1995年から2004年にかけての製造業の推移を見てみると、筑後圏の減少の割合(%)は、福岡県、九州8県より大きい(図表9)。

そうした中、ダイハツ工業エンジン工場の久留米への進出は近年に近く話題となっており、今後も自動車産業・半導体産業のさらなる誘致や、環境・バイオなどの新産業の創出など、地域経済を牽引する産業の振興が、喫緊の課題である。

**図表9:筑後圏、福岡県、九州の製造業の推移**

(単位 事業所、人、億円)

		1995年	2004年	増減(%)
筑後圏	事業所数	2,886	2,035	▲29.5
	従業者数	63,175	46,643	▲26.2
	製造品出荷額	11,943	9,881	▲17.3
福岡県	事業所数	9,492	6,966	▲26.6
	従業者数	284,946	217,871	▲23.5
	製造品出荷額	78,162	73,323	▲6.2
九州8県	事業所数	28,196	21,359	▲24.2
	従業者数	816,421	658,067	▲19.4
	製造品出荷額	198,540	197,323	▲0.5

(注)従業者4人以上の事業所

出典：経済産業省「工業統計表」

## 第2章 筑後圏を発展させるための4つの課題

1章で述べた3つの問題は、筑後圏の発展を阻害する要因である。これらの問題を解決するために取り組まなければならない課題について、この章で述べる。

### 1. 久留米市中心市街地の再生の道を探る

1章で述べたように、筑後圏の中心である久留米市中心市街地は空洞化に悩まされている。中心市街地は、その都市および周辺を含めた地域の顔である。したがって、このまま久留米市中心市街地の空洞化が進むと、その影響は久留米市全体、さらには筑後圏全体にも及び、筑後圏全体の魅力が無くなる。

このような事態を避けるためにも、久留米市中心市街地を再生し、久留米市を「筑後圏の発展を牽引する強固な都市」へと変貌させていかなければならない。

### 2. 人に優しい都市交通を目指す

交通渋滞、歩道の未整備、南北交通の弱さといった久留米市中心市街地における交通の諸問題は、都市の魅力を損なわせ、久留米の吸引力の低下につながっている。こうした事態を解決し、久留米が筑後圏の中核都市として発展していくためには、主要道路の改良やバイパス整備を早期に実現して渋滞を解消するとともに、中心市街地の整備が課題となる。

中心市街地の整備については、歩道の整備と、公共交通機関の強化により、都市生活の快適さを高めていかなければならない。歩道を整備して楽しく歩ける環境をつくることは、回遊性を高め、都市を活性化させることにつながる。また、高齢化が進む今後、マイカーを保持しない高齢者が増加することが予想され、公共交通機関の強化が重要な施策となる。車に頼らずに生活できる環境をつくることは、都市部の渋滞緩和にもつながる。

### 3. 人口減少・少子高齢化への対応策を早急に示す

人口減少・少子高齢化への対応として、子どもを産み、育てる環境づくりが求められる。また、女性が働きやすい環境、共働きでも生活しやすい環境をつくることも課題となる。さらには高齢化の進行に伴い、医療・介護における利便性の追求や高齢者が安心して暮らせる環境の提供も必要となる。

### 4. 筑後圏のポテンシャルを最大限に活用する

地域を取り巻く環境は厳しいものであるが、筑後圏は以下に示すように優れたポテンシャルを持つ。こうしたポテンシャルを最大限に発揮するためには、それぞれの市町村が単独で発展を目指すのではなく、ポテンシャルを共有するという視点が必要となる。「市町村が様々な分野で連携し、一体的な発展を遂げる」ことを目標にしたい。



## (1) クロスロード地域としての産業立地の優位性

筑後圏は、高速交通のクロスロードの結節点として、国土構造上の恵まれた地理条件を有する。高速道路では九州縦貫道と九州横断道が交差し、JRでは鹿児島本線、久大線、長崎本線が結節している。福岡都市圏をはじめ、佐賀、大分、熊本など各方面からのアクセスも良い。自動車産業や半導体産業の九州への集積とともに物流・工業の拠点化が進んでおり、クロスロードの産業ポテンシャルをさらに高める必要が生じている。

また、筑後圏は有明海沿岸や筑後川流域の平野部に恵まれ、1次産業生産高は福岡県全体の53.9%に相当する825億円を誇るなど、農水産業従事者も多い（平成14年度実績）。

さらには、バイオ・環境といった新産業の分野での期待もかかる。圏内には、久留米アジアバイオ特区、環境新産業特区（大牟田）といった特区を持ち、突出した医療・バイオ・環境分野のさらなる発展を目指すことが望まれる。

## (2) 集積度の高い高等教育機関

筑後圏には9つの大学、短大、高専が存在し、専門の知識や技術を持った人材を育成している。こうした人材を地域の発展につなげることが重要である。

### ①医療福祉・看護分野

（久留米大、聖マリア学院大、国際医療福祉大、帝京大福岡医療技術）

### ②幼児教育・健康栄養分野

（久留米信愛女学院短大、九州大谷短大）

### ③工学分野

（久留米工大、久留米工業高専、有明工業高専）

## (3) 豊かな伝統・文化

また、筑後圏は伝統・文化についても恵まれた地域である。温暖な気候、緑豊かな耳納連山、筑後川や矢部川の水系、豊穡な有明海に囲まれ、古来より伝統文化を育んできた。緋、仏壇、提灯、人形、家具、竹細工、ござ、瓦、和紙などの伝統工芸品、そして大善寺の鬼夜、筑後川花火大会、大蛇山まつり、八女燈籠人形、幸若舞といった有名な伝統行事も多い。これら伝統・文化の魅力も、地域の発展に活かしていきたい。

## (4) 福岡都市圏への近接性

最後に住環境としてのポテンシャルである。筑後圏は、九州最大の「商都」である福岡への距離が近く、福岡都市圏への「通勤圏」「通学圏」「生活圏」として位置付けることができる。また、福岡に比べて土地の値段が安く、農産物や水資源も豊富であり、生活しやすい地域である。2011年春に九州新幹線が全線開業すると、福岡への時間距離はさらに短縮される。

### 3章 提言

#### ビジョン1 文化の薫り高く、住み心地の良いコンパクトシティ久留米を形成する ～筑後圏の発展を牽引する力強い中核都市を目指す～

1章、2章で述べたように、筑後圏が持続的に発展していくためには、中心となる久留米市が、筑後圏を牽引する力強い中核都市へと発展しなければならない。そこで「コンパクトシティ」の形成に取り組むべきである。「コンパクトシティ」とは、都市の郊外化を抑制し、市街地をコンパクトに保ち、自動車に頼らずに徒歩・自転車・公共交通機関で暮らせるまちづくりを目指すという考え方である。都市の中心に、商業施設、官公庁舎、オフィス、住宅、レジャー・娯楽施設・図書館・美術館などの芸術文化施設、観光施設などを集中させ、地域経営コストの削減や賑わいのあるまちづくりを進めるべきである。久留米市中心市街地においても、是非この概念を取り入れ、コンパクトなまちづくりによる持続可能な都市の成長を目指したい。

久留米市の魅力としては、第一に教育水準の高さが挙げられる。久留米市の教育水準は非常に高く、高校進学率、大学進学率も福岡県や全国の値に比べて群を抜いている。全国有数の進学校も存在する。

第二は医療である。久留米市は医療機関や医療関係従事者が多い高度医療都市である。市内中心部にも久留米大学病院・聖マリア病院・古賀病院をはじめとした多くの病院が存在する。夜間の小児救急医療体制も整っていて、子育てする上でも安心である。

第三は食であり、九州有数の農業生産地域である。周辺地域も含めると米、野菜、フルーツなど多様な品目を産出し、豊富な食材に恵まれた都市といえる。また、久留米ラーメン、焼き鳥、筑後うどんといった独自の食文化も持つ。さらに久留米を中心にした筑後圏は、九州の酒どころであり、清酒や焼酎の生産も多い。

このように、久留米市は教育・医療・食に恵まれ、居住環境としては申し分ない。このような久留米市の特色を活かし、都市の魅力を高めていくためには、もう一度住居の都心回帰を促進させる必要がある。限られた資源の中で、快適、安心、安全の市民生活を創出していくには、コンパクトにまとまった都市空間を築き上げることがますます求められる。その実現のために、まちづくりに関する次の4つを提案する。

- ① 居住環境・生活環境の充実（提言1）
- ② 中心市街地の賑わいの創出（提言2）
- ③ 楽しく歩ける都市、回遊性の高い都市の実現（提言3）
- ④ 住みよいまち久留米のPRの強化（提言4）

## 提言1 居住環境・生活環境を充実させる

「住」をテーマにしたコンパクトシティの形成のために、久留米市には中心市街地の居住環境・生活環境の整備を求めたい。

### (1) 働く人にとって利便性の高い環境をつくる

久留米市中心市街地を「職住一致の場」および「福岡や筑後圏の各都市への通勤圏」として位置付け、働く人にとって暮らしやすい環境をつくる。

その施策として、第一に、駅周辺などの利便性の高い地域を整備して民間のマンション供給を促す必要がある。ビジネスマンやOLの生活環境を充実させるため、夜間営業を行うスーパー・外食産業・クリーニング店などを西鉄久留米駅前やJR久留米駅前などの都心部に集中させることが望まれる。

第二に、職住一致の都市を形成するために「働く場」を中心市街地やその周辺地域につくる必要がある。久留米市では「福岡バイオバレー構想」のもと、バイオを核とした研究機関・関連企業の集積を進めている。バイオ産業を中心に環境、医療など今後の発展が望める分野の企業や研究機関の集積にさらに力を入れ、雇用の場を創出してもらいたい。

### (2) ファミリー層が暮らしやすい環境をつくる

ファミリー層が暮らしやすい環境のためには、働く女性・主婦・子どもなどの属性に応じたライフサービスの工夫が必要となる。快適な都市空間をつくるために、映画館などの娯楽施設、フィットネスクラブなどスポーツ施設、生鮮食品を扱うスーパーなど多種多様なサービスを中心市街地に誘導する必要がある。同時にウォーキング、コンサート、お祭りなど都市型イベントの充実を図ることも求められる。これらのイベントは、住民や商工会議所が自ら主体となって計画し、まちを盛り上げていくことが大切である。

また、子育てしやすいまちづくりを進めるために、利便性の高い駅中などに託児所・保育所などの育児施設をつくと同時に、子どもを遊ばせるための公園を中心市街地に整備してもらいたい。公園整備は都市の緑化や市民の回遊性の向上（散策コースにもなる）にもつながる。さらに、子育て支援には企業の協力も必要である。育児休暇利用の促進や職場復帰後の条件整備などのほかに、地域ぐるみで子育て応援をしようとする取り組みも始まっている。福岡県地域福祉財団では2006年10月から、小学校入学前の子どもがいる「子育て家庭」を対象に、企業・団体の協力を得て商品の割引等様々なサービス・特典を提供する「子育て応援の店」推進事業を始めた。2007年3月末現在で久留米市では62店が加盟している。さらに加盟店を増やすために、久留米市や商工会議所には、企業や店舗への働きかけをお願いしたい。

### (3) 高齢者が快適に暮らせるまちづくりを行う

高齢化が進む中、高齢者のための居住環境の整備は欠かすことができない。自動車保有が少ない高齢者は、郊外で生活するよりも中心市街地で生活する方が適しており、また中心市街地にあらゆる世代の生活者が混在することで活力を増すことができる。高齢者にとって久留米市中心市街地は、久留米大学病院、聖マリア病院、古賀病院をはじめとした多くの病院も立地しており、中心市街地にシルバーマンションなど高齢者施設を誘導できれば、親子の「スープの冷めない距離」への居住、3～4世代が住めるまちづくりも可能となる。高齢者居住の促進策としては、以下の4つをポイントに進めてもらいたい。

- ① 介護施設、高齢者用介護サービス付マンションの建設を促進する。家族や親戚が訪問したり、周辺に居住したりすれば、まちの賑わいも創出できる。
- ② 地元密着の訪問販売、宅配販売など高齢者をターゲットにしたビジネスへの企業の進出を促進する。郊外型ショッピングセンターとの差別化を図る。
- ③ 駅やまちなかのバリアフリー化を徹底する。
- ④ 中心市街地の商店街で取り組まれている全国有数規模のタウンモビリティ事業※をさらに活性化させる **※巻末・参考2 36 ページ**

### (4) 留学生にとって住みよいまちづくりに取り組む～産学官連携で留学生を支援～

最後に留学生の定住促進とまちの活性化についての提案を行う。現在、久留米大学には留学生（中国人）が304名在籍しているが、そのうち久留米市在住はわずか150名で、残り半分の留学生の大半は福岡市に住んでいる（平成18年5月1日現在）。その理由を留学生に聞いたところ、①久留米市にはアルバイトがない ②久留米市では安いアパートが見つからない の2点が挙げられた。この現状に際し、久留米市が中心となり、留学生にとって住みよい環境づくりを推し進めていくことが求められる。留学生支援を久留米の活性化に結びつけていきたい。

そこで、久留米市、久留米大学、経済団体が連携してコンソーシアムを立ち上げ、留学生支援を行うことを提案する。今まで市や大学が別々に行っていた留学生支援を産学官が連携することで、より効果的な取り組みが行えると考える。具体的な事業は以下の通りである。

- ① 中心市街地に交流の場として国際交流会館を開設（まちの賑わい創出にもつながる）
- ② アルバイトや住宅に関する情報提供・支援（定住の促進）
- ③ インターンシップや就職の支援事業（企業のメリットとしては新たな人材活用）
- ④ 地域住民との異文化交流（地域の活性化）

例：留学生が、地域住民に中国語・中国文化を教える

海外からの「筑後観光」の通訳として久留米大学の留学生を起用する

## 提言2 中心市街地の賑わいを創出する～久留米の生活文化を活かしたまちづくり～

2011年に九州新幹線が全線開業すると、筑後圏の玄関口としてのJR久留米駅の機能が高まる。そこで、西鉄久留米駅、六ツ門地区、JR久留米駅の三箇所を賑わいの拠点として位置付け、まちを整備することを提案する。特にダイエー六ツ門店が閉鎖した後、賑わいが低下している六ツ門地区の再生は喫緊の課題である。六ツ門地区を活性化させることで、西鉄久留米駅、JR久留米駅から六ツ門への人の流れが生まれ、都市の賑わいを創出できる。なお、賑わいの創出にあたっては、他の地域では味わうことのできない久留米独自の生活文化を活かした都市づくりを行うことも重要である。

### (1) コンベンションセンターと大型文化ホールの建設(JR久留米駅前、六ツ門地区に提案)

久留米市中心部には久留米市民会館、石橋文化センターといった文化ホールが存在するが、筑後圏の拠点施設としては規模が小さく、老朽化も進んでいる。

そこで、県南の中核都市に相応しい収容人員3,000人規模の大型文化ホールを中心市街地に建設することを提案する。福岡市のアクロス福岡・福岡シンフォニーホールのように最新の音響機能を整備し、文化の薫り高い都市を実現させるための一助となるようにする。

また、大規模な学会、見本市、展示会などのイベントを開催するためのコンベンションセンターの建設についても提案する。高度医療都市、商業都市である久留米では、医学会などの大規模な会議や、ゴム製造品・靴製品・伝統工芸・医療器具・食品などの見本市を開催しやすい環境にある。会議、イベントを開催することで交流人口を増加させ、まちの活性化につなげてもらいたい。

### (2) 食の産業、食の文化の発信拠点(六ツ門地区に提案)

久留米や筑後地域の食の産業、食の文化拠点を、ダイエー跡地など六ツ門地区につくことを提案する。久留米市内に散らばる有名ラーメン店の支店を集めるほか、焼き鳥、筑後うどん、うなぎのセイロ蒸しなど、地元の名物料理を味わえる店舗を集積する。さらに、有明海の魚介類や筑後地域の新鮮・安全な農産物など地元の食材を使った地産地消を推進する。久留米や筑後地域の味を一箇所に集積することで、賑わいの創出や地域の食産業、食文化の情報発信を図ってもらいたい。

また、農産物の直売所もつくってみてはどうか。九州有数の農産物生産地である久留米市だが、都市部で地元の農産物を購入できる場所が少ない。六ツ門地区に、地元客をターゲットにした「都市型“道の駅”」を開設し、青空市場を併設して筑後地域の新鮮な野菜や果物などを販売することを提案する。地元住民が「生産者の顔が見える新鮮な素材」を常時買うことができ、地元に対して愛着を持てる。また、地元住民に支持されれば観光客も訪れる。さらに、観光客と地元住民が共に買い物をすることで、賑わいが創出できる。併せて、筑後の各種地酒や伝統工芸品も販売すれば、相乗効果が期待できる。

### (3) 知の集積拠点(西鉄久留米駅前に提案)

西鉄久留米駅には、知的施設を集積することを提案する。第一に図書館の開設である。青森県・青森市では、市民図書館を青森駅前の混合ビル「アウガ」に移設してから、来場者が大幅に増加し、中心市街地の活性化にもつながっている。開館時間も朝 10 時～夜 9 時までと長く、学生・社会人などの層にも好評である。西鉄久留米駅前にも将来的に図書館を開設することを提案する。閉館時間を遅くして通勤・通学途中の人への利便性を高めるほか、「絵本の読み聞かせ」など親子向けサービスの充実も図ってもらいたい。中心部へ人を呼び込む方策の一つになる。

第二に、公開講座の実施である。例えば、久留米大学御井校舎で行われている公開講座の一部や、六ツ門大学の講座の一部を西鉄駅前で実施する。その他、筑後圏の 9 つの高等教育機関や福岡都市圏の大学を連携させて公開講座を実施したい。特に高度医療都市久留米として、予防医学や食育についての市民向け講座を充実させてもらいたい。

### (4) 伝統・文化・地場産業のPR拠点(JR久留米駅前に提案)

九州新幹線全線開業に合わせて、JR久留米駅において観光客向けに筑後地域の産業文化のPRセンターを設置することを提案する。具体的には、タイヤ・ゴム靴・久留米餅・八女茶などの地場製品の展示に加え、久留米餅や八女手漉和紙など筑後地域の伝統工芸品の工房、体験教室、講座、販売所などを開設する。

多様な伝統工芸品を生産する岐阜県では、岐阜駅の高架下施設を利用して、地場伝統産業の開発、販売、情報発信を行っている。多くの伝統産業を持つ筑後圏でも、同様の取組みが可能であり、JR久留米駅を活用してもらいたい。

併せて、九州新幹線の車内を伝統工芸で装飾することも提案する。椅子のカバーに「久留米餅」を利用したり、窓際のテーブルの素材に「大川家具」を用いたり、新幹線利用者に伝統工芸の素晴らしさも同時に味わってもらおう。

また、久留米駅の駅中に筑後の地酒・焼酎のショットバーを開設してみてもどうか。特産物である地酒に加え、全国的に珍しい焼酎のPRにもつながるだろう。観光客だけでなく、地元の人も気軽に足を運べる空間とし、交流の場にもしていくことを提案する。

#### 〈参考〉筑後地域の珍しい焼酎(例)

- ・ごま焼酎(紅乙女酒造 久留米市)
- ・緑茶焼酎(喜多屋 八女市)
- ・かぼちゃ焼酎(西吉田酒造 筑後市)
- ・にんじん焼酎(研醸 大刀洗町)
- ・海苔焼酎(清力酒造 大川市)
- ・ひまわり焼酎(目野酒造 柳川市)

### 提言3 楽しく歩ける都市、回遊性の高い都市を実現する

#### (1) 回遊散策道路の整備を行う

久留米市は、自然環境、歴史遺産、伝統文化に恵まれた都市であり、中心市街地にも見所が多い。これら地域の財産を最大限に活かし、市民や観光客が楽しく歩けるまちをつくるのが、久留米市を活性化させるうえで欠かせない。こうした環境づくりは、住民に快適な生活を提供するとともに、まちの活気を生み出す。

現在、市や観光協会などで様々な散策マップを発行しているが、歩道が整備されていない箇所、歩行者の安全が保たれていない箇所が多く、快適に歩ける環境とは言い難い。市民や観光客が中心市街地の散策ルートを楽しめるよう、久留米市には歩道の整備や自転車道路の整備に取り組んでもらいたい。

その際、電柱の埋設化を進めて歩道を広くしたり、緑化の推進を行って景観を良くしたりと、歩行者が気持ちよく歩けるような工夫が必要である。それに加えて、お年寄り、子ども、障害者などが安心して歩けるよう、バリアフリーも考慮に入れた歩道整備を行いたい。こうした歩道の整備は、毎年開催される「久留米つつじマーチ」を運営していく上でも重要であると言える。

また、筑後川河川敷には、桜並木、つつじをさらに増やし、河川敷に賑わいをもたせて憩いの場とすることも合わせて提案する。

特に早急に整備して欲しい場所として、西鉄久留米駅～石橋文化センターへの歩道を挙げる。石橋文化センターは、美術館、文化ホール、図書館などの施設が立ち並ぶ久留米の文化の中心である。しかしながら、西鉄久留米駅～石橋文化センターへの「文化センター通り」は、歩道が狭く、歩く環境として適していない。既に久留米市でも整備計画を立てているが、早期実現をお願いしたい。整備と同時に、通りの名称を久留米が生んだ近代画の巨匠である青木繁から名前をとって、「青木繁通り（あおきしげるとおり）」と命名し、その名の通り、青い木の繁る通りをイメージして緑化を推進したい。遊歩道には、落ち着いたカフェなどお洒落な空間を作り、若者も含めた広い世代に散策してもらえるようにするのも一案である。

また、遊歩道の整備と同時に、石橋文化センターの文化機能のさらなる充実として、コンサートホールと市民博物館の建設もお願いしたい。

さらに、寺町周辺の歩道も改善の余地があることを付け加えておく。寺町は、17の寺院という貴重な文化資源を抱えている。それにも関わらず、それぞれの寺院を散策する際には、車をよけながら狭い車道を通行しなければならない。また、電柱が多く景観を損ねている。歩道の整備や、車の寺町への通行禁止の措置、さらには電柱の埋設化を検討してもらいたい。

## (2) 公共交通機関を強化し、回遊性を高める

今後人口の高齢化が進むにつれ、日常生活において自家用車を使えない人が増えていく。公共交通機関の利便性を高め、自家用車依存度の低下を促進する。自家用車依存度を低下させることは、久留米が長年抱える渋滞の緩和や、環境にやさしいまちづくりとして有効である。

久留米市中心市街地のバス路線を見てみると、六ツ門、市役所を經由する西鉄・JRの両久留米駅間を結ぶ東西の便数が多いが、久留米警察署前（平日 17 往復、1 時間に約 1 本）、本町（同 13 往復）、聖マリア病院前（同 50 往復）など、中心市街地を南北に運行する路線の便数は少ない。利用者の減少にともない、減便、路線の統廃合が行われたからである。

以上のような現状に対して、中心市街地の南北の交通を強化することが望まれる。具体的施策としては、コミュニティバスとベロタクシーの導入を提案する。

### ①コミュニティバスの導入 巻末・参考3 37 ページ

中心市街地の南部、北部地域のバス路線空白地を中心に、西鉄久留米駅前の商店街、西鉄久留米、花畑駅、JR久留米駅を結ぶコミュニティバスを運行してはどうだろうか。例えば、JR久留米駅からブリヂストン、久留米大学病院へと結べば、通勤や病院への通院に活用できる。

運営は西鉄にお願いしたいが、導入にあたっては中心市街地に病院が多い等、利用ニーズをよく把握し、地域住民・企業・経済団体等の計画段階から参画し、既存のバス路線との連携を図ることが必要である。また、コミュニティバスを長期的に運営するためには、行政からの補助以外に、病院、商業、公共施設等の協力によって新規利用者を増やし、財源確保の検討を行うことが必要である。

さらに、地域交通全体を検討する中で、JR久留米駅、西鉄久留米駅、花畑駅間のバス運賃 100 円均一化も検討する。

### ②ベロタクシー(自転車タクシー)の導入

ベロタクシーは、バスや車では通ることのできないような狭い路地を通ることができ、歩くには遠くタクシーに乗るには近い距離の利用に適している。現在、福岡市など全国 16 ヶ所で運行されている。コミュニティバスと同様に、中心市街地の南部、北部地域などバス路線空白地を中心にベロタクシーを導入してはどうか。

福岡市での事例を見てみると、ベロタクシーは子どもの塾への送り迎え、高齢者の移動手段など日常生活の様々な場面で活躍している。子どもの送迎、高齢者の移動時の付き添いは、安心・安全なまちづくりを進める上でも、極めて重要である。

久留米の地域性から考えて、ベロタクシーを導入するメリットとしては以下の 5 つが挙げられる。

- ①中心市街地がコンパクトにまとまっておりベロタクシーの利用に丁度良い距離である
- ②病院が多く通院に利用できる
- ③高齢者が多いため、買い物など日常生活をサポートすることができる
- ④平地が多く坂が少ない

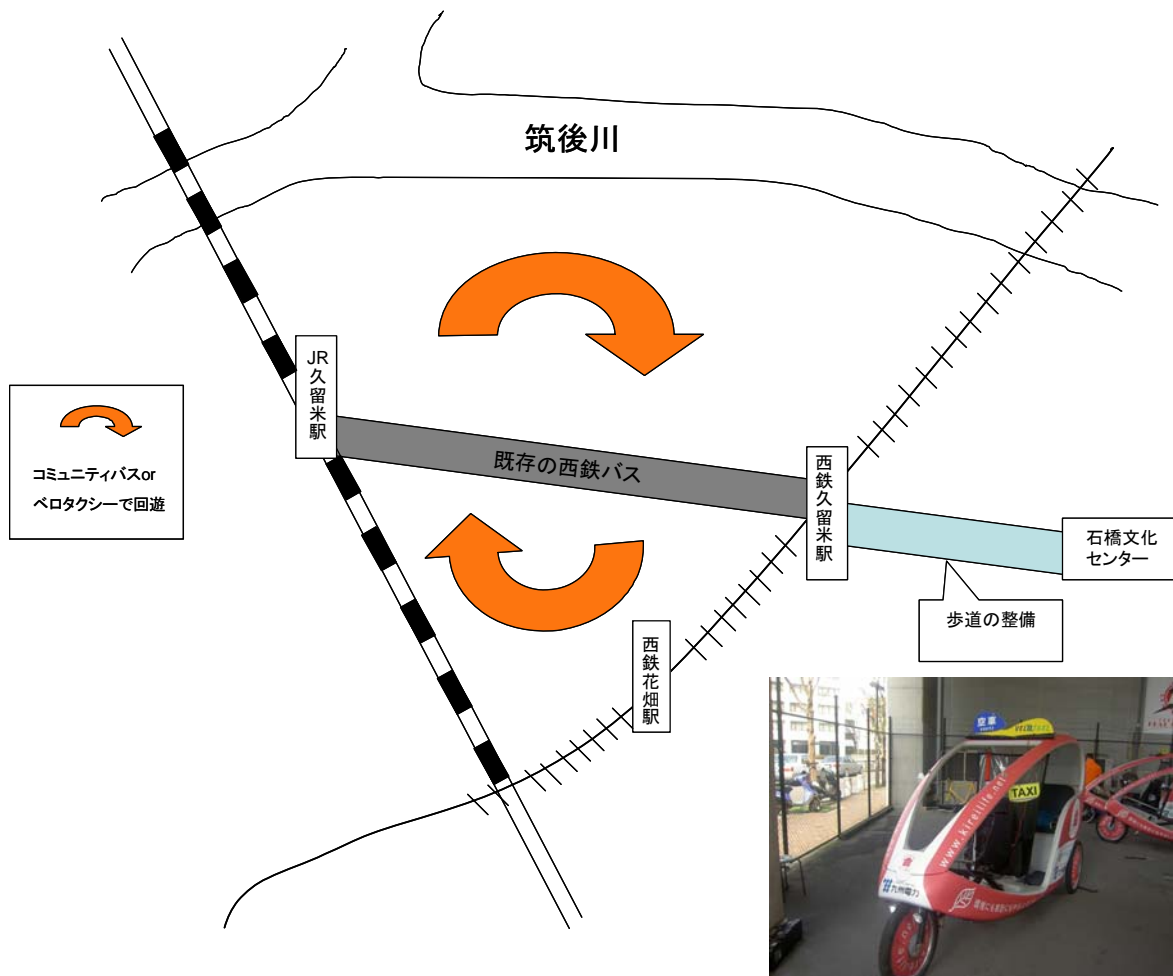


⑤細い道が多いが、車幅 110cm ベロタクシーであれば無理なく走行できる

⑥観光名所が少し離れているため、観光名所間の移動がスムーズとなる。また、平均時速 11km のベロタクシーは、乗車中もまちなみ観光を楽しめる（寺町の観光などに最適である）。

久留米市中心市街地へのベロタクシーの誘致（NPOや民間業者による運営）ならびに 1 番街、2 番街のアーケード内の通行許可をお願いしたい。

### 回遊性のある市街地についてのイメージ



福岡市のベロタクシー

## 提言4 住みよいまち久留米のPRを強化する

住環境を整える施策とともに、久留米の住みやすさをアピールして、移住を呼び込む。医療、教育、子育て環境、文化、自然など豊かな生活環境をPRする。

例えば福井県では、「健康長寿」をテーマにした「なぜか長寿。」ポスターを利用し、観光PRを積極的に行っている。健康長寿な福井県の秘密として、福井生まれのコシヒカリや越前がに、若狭ふぐなどの豊かな食材、そして美味しい水を挙げ、福井県の魅力も同時にアピールしている。また、ポスターでは「福井県おもしろデータランキング」という切り口で女性の社会進出、社長輩出数、自動車保有台数など各県を比較してランキング化し、福井県が上位の項目を数多く掲載している。このようなインパクトのあるポスターに、見る者の目が惹きつけられる。

住環境のポテンシャルが高い久留米市でも、人口一人あたりの医師数や高校進学率・大学進学率などの高い数値や、豊かな自然・豊富な食などを数値化した上で前面に出し、住みよいまちのPRを強化することを提案する。

### 久留米市の住みやすさを表すための指標(例)

	久留米市	福岡市	福岡県	全国
消費者物価指数	97.4	102.7	97.9	100
人口1万人当たり保育所数	2.16	1.18	1.73	1.76
高校進学率(%)	98.6	95.7	96.8	97.4
大学進学率(%)	68.3	49.8	45.2	45.3
人口10万人当たり医師数	500.3	335.7	268	211.7
農業産出額	県内1位			

出典：久留米市統計書、福岡市統計書、日本統計年鑑（すべて平成17年度）



福井県「なぜか長寿。」ポスター

## ビジョン2 広域連携による筑後圏の一体的発展を目指す

生産年齢人口の減少と厳しい財政制約の下で、筑後圏が持続的に発展していくためには、市町村が連携して地域づくりを進めていくことが重要となる。筑後圏が一体となると、人口 87 万人、GDP 2兆4千億円、1次産業生産高 825 億円（福岡県全体の約 54%に相当）を有する規模に発展する。

今後、各市町村がそれぞれ実施するよりも筑後圏全体で広域的に実施した方が効率的な施策は、連携して共同実施することが望ましい。また、各市町村が持つ共通の課題については、共通する政策をつくって筑後圏全体で実行する「政策連合」を進めていく必要がある。

連携によって筑後圏全体のポテンシャルを最大限に活用し、限られた予算の中で質の高いサービスを住民に提供していくべきである。また、一体となることで強固な広域圏の形成を実現し、持続的発展を目指す。具体的施策として、以下の5つの提言を行う。

- ①企業誘致、地場企業の新規分野への参入についての連携（提言5）
- ②医療・健康の連携（提言6）
- ③農水産業の連携（提言7）
- ④伝統文化の連携（提言8）
- ⑤将来構想として大筑後圏の形成（提言9）

### 提言5 企業誘致や地場企業の新規分野への参入促進に取り組む

トヨタ、日産、ダイハツの生産増強により、昨今の北部九州の自動車生産は、生産 150 万台体制を目指す段階に入った。また、九州全体では半導体や電子部品の集積も進んでいる。

筑後圏では、久留米のゴム産業に代表されるように過去からものづくりの技術力を養ってきた。久留米工大、久留米工業高専、有明工業高専などに代表されるように、工業分野の人材育成にも力を入れている。こうした技術力や人材を活かし、地域一体となって、IT、自動車産業の部品メーカーの誘致や地場産業の参入促進に取り組むべきである。加えて筑後圏は、久留米アジアバイオ特区、環境新産業特区（大牟田）に代表されるように、バイオ・環境の分野にも力を入れている。これら分野のさらなる発展も目指したい。

産業誘致については、筑後圏の市町村が企業誘致のための協議会をつくり、共同で誘致に取り組む。九州一円へのアクセスの良さ、高度な技術を有した人材、地価の安さ、高度医療の充実などのメリットを筑後圏一体となってPRする。

地場産業の参入については、高い技術力を持つ地場企業がIT、自動車、バイオ、環境などの分野へ積極的に進出するよう、筑後圏の市町村が一体となって促す。

## **提言6 高度医療・健康地域を形成する**

筑後圏は、久留米をはじめとして高度な医療施設が集積している。筑後圏全体で高度医療地域を形成し、広域化、共有化を展開する。

### **(1) 筑後圏全体で救急医療体制を充実させる**

2006年4月、「久留米広域小児救急センター」事業（久留米、小郡、大刀洗、うきは、大川、大木の6市町が加盟し、広域での小児科夜間救急診療サービスを実施）がスタートした。久留米市の聖マリア病院内の小児救急センターで、地元開業医や久留米大学、聖マリア病院などの小児科医が、毎晩19時から23時まで交代で診察する。

この事業を連携強化し、筑後圏一体に拡大してはどうか。つまり、筑後、八女、大牟田など筑後圏南部の地域でも、同様の広域小児救急センター事業を始めることを提案する。また、小児科に次いで産科の分野でも救急医療体制を始めることを提案する。「次代を担う子どもたちを安心して産み育てることができる環境づくり」が広域に及ぶことが期待できる。

### **(2) 地域一体で医療教育や食育を推進し、「高度医療・健康地域筑後」を目指す**

筑後圏の「医療機関の集積」、「豊富な農産物」といった強みを活かして医療・健康の啓発や食育に取り組み、「高度医療・健康地域筑後」を目指す。

そのために、筑後圏の市町村、医療機関、教育機関、農林水産業関係者、住民などが連携し、

- ①住民に対する医療・健康に関する知識普及（予防医学など）
- ②ウォーキングイベントの普及など健康づくりの推進
- ③食に関するシンポジウム（ちくごスローフードフェスタの継続および拡大）
- ④学校教育における健康や食についての指導

などに取り組む。

予防医療の推進は地域の医療費削減につながり、食育の推進は地域住民の安心・安全で健康的な食生活の実現や地域の伝統的食文化の継承につながる。

## 提言7 地域一体で農水産業を推進する

豊富な農水産物を産出する筑後圏は、福岡都市圏への供給のほか九州一円や関西・関東にも出荷する「食糧供給基地」としての地位を確立している。筑後圏が一体となって「食料供給基地」としての機能をさらに強化する。

### (1) 農業の組織化・機械化の促進および筑後ブランドの構築に取り組む

現在、筑後圏では全国同様、後継者不足や高齢化が進む中山間地域を中心に耕作放棄地が増加している。そこで、地域一体となり、農業の組織化、規模拡大を推進し、生産性の向上や耕作放棄地の活用を図っていくことが求められる。久留米で研究が進むバイオ技術も農業生産に活用してもらいたい。また、工業技術と連携することで農業の機械化を推進して力仕事を減らし、高齢者でも働ける環境をつくっていくことも必要である。

さらに、農林水産業、食品産業において重要となるのがブランドの構築である。「あまおう」、「八女茶」など既に高付加価値の商品を生産する筑後圏であるが、地域統一のブランド構築にさらに励むべきである。農産物の筑後ブランド、水産物の有明ブランドをつくり、地域全体で盛り上げていくべきである。ブランド化した高付加価値の商品は、菓子メーカーや食品メーカーとタイアップしたり、中国などアジア諸国への輸出にもつなげてもらいたい。

### (2) 地産地消を促進する

新鮮で安全な農産物を売りにする農産物の直売所は近年各地で増加している。筑後圏の直売所が広域で連携、ネットワーク化を強化し、地域農業の一体的な発展を目指したい。そのために、直売所を運営するJAなどの団体が、筑後圏全体での広域の協議会をつくり、品揃えを充実させるための商品の流通、共同PR、筑後圏全域の直売所マップの作成、消費者ニーズなどの情報共有化などを行うことを提案する。

また、九州新幹線の全線開業に合わせて、筑後圏が一体となって地元の特産物を使用した駅弁や銘菓の新たな開発を行うことも提案する。開発した弁当や銘菓は、各市町村でも一斉に売り出し、大きくPRしてもらいたい。

## 提言8 伝統・文化の連携に取り組む

### (1) 地域一体で伝統工芸を振興する～異業種間連携の促進～

筑後地域には「久留米餅」「八女福島仏壇」「八女提灯」といった国指定の伝統工芸品が存在する。その他にも「大川家具」「八女人形」「城島瓦」「花ござ」「八女手漉和紙」など有名な伝統工芸は多い。これら伝統工芸の異業種間の連携、協働を試みる。業種は異なっても、同じ筑後地域の歴史と風土が育んだ伝統工芸品としての、相乗効果が期待できるだろう。若手伝統工芸家の異業種交換会やマッチングの場を、市町村や商工会議所が設け、新たな連携、協働を実現させることを提案する。

例えば「大川家具」と「花ござ」が協働すると、「大川家具」の椅子の座面に「花ござ」を施すことができる。座り心地の良さに加え、趣深さも生まれ、それぞれの長所を合わせた工芸品が生まれるであろう。

## (2) 各種イベント、祭りを地域一体でPRする

昨年秋に行われた「筑後スローフードフェスタ 2006」。筑後地域の「食文化」にスポットを当て、「食」に関する様々な体験・交流を通して筑後地域を全国にアピールするこの祭典のPRを今後の広報活動のヒントにしたい。

この「筑後スローフードフェスタ 2006」の広告宣伝活動を振り返ってみると、イベント開催地区である筑後全体の市町村でポスターを掲出していたため、どの地域に行ってもこのポスターを目にすることができた。

これを参考に、今後、筑後圏の各市町村で行われる様々なイベントにおいても、筑後圏全体でイベントの告知を行ってみてはどうだろうか。

例えば各市町村で行われる夏の花火大会を1つのポスターにまとめて、全市町村で一斉に告知する。

また、久留米市の鬼夜、大牟田市の大蛇山、八女市の燈籠祭り、柳川市の白秋祭りなど各市単独で開催するイベントについても、筑後圏全ての市町村でポスターを貼るなど、協力してPRする。この案件は、筑後地区観光協議会にお願いしたい。

## 提言9 将来構想として大筑後圏を目指す～道州制を視野に入れる～

東アジアの拠点として九州が繁栄するためには、九州が道州制に移行し、そのパワーとポテンシャルを発揮してアジアの都市や地域と独自の交流を進めることが重要となる。

道州制とは、国の役割を外交などに重点化し、住民に身近な内政は地方自治体が担うなど、国と地方の統治機構を抜本的に見直して地方の活性化を図るものである。道州制に移行するためには、基礎自治体である市町村が住民に身近な行政サービスを自己完結的に実施できるように、国や県から権限と財源の移譲を受ける必要があり、そのためには受け皿となる基礎自治体にはある程度の規模と行政能力が求められる。

筑後圏も将来的には佐賀、熊本との県境も越えて合併すれば、道州制を支える基礎自治体として十分な資格と能力を持つ。

道州制に向けて、筑後圏の市町村がベクトルをひとつにして道州制移行のための条件整備と基盤づくりを行う必要がある。

そのために、久留米市・小郡市・鳥栖市・基山町で構成する「筑後川流域クロスロード協議会」が牽引役となって「大筑後圏構想」を打ち出し、筑後全域に参加を呼びかけてはどうか。

## 筑後圏が持続的に発展するための提言リスト

**ビジョン1** 文化の薫り高く、住み心地の良いコンパクトシティ久留米を形成する

**ビジョン2** 広域連携による筑後圏の一体的発展を目指す

	早急に取り組むもの	時間をかけて取り組むもの
<p><b>ビジョン1</b></p> <p><b>1 居住環境・生活環境の整備</b></p> <p>(1) 働く人への利便性の高い環境づくり</p> <p>(2) ファミリー層が暮らしやすい環境づくり</p> <p>(3) 高齢者が快適に暮らせるまちづくり</p> <p>(4) 留学生にとって住みよいまちづくり</p>	<p>○中心市街地へのマンション建設促進</p> <p>○夜間営業を行う店舗を駅前に集積</p> <p>○娯楽施設、スポーツ施設、スーパーなど生活サービスの充実</p> <p>○ウォーキング、コンサート、お祭りなど都市型イベントの充実</p> <p>○駅中への託児所、保育所の開設</p> <p>○「子育て応援の店」推進事業への加盟店を増やす</p> <p>○介護施設、高齢者用介護サービスマンションの建設促進</p> <p>○駅やまちなかのバリアフリー化</p> <p>○タウンモビリティ事業の活性化</p> <p>○産学官でコンソーシアムを立ち上げ、留学生を支援</p>	<p>○バイオを核として、環境・医療産業の育成と雇用の場を創出</p> <p>○子どもが自由に遊べるまちなか公園の整備</p> <p>○地元密着の訪問販売、宅配販売など高齢者をターゲットにしたビジネスへの企業の進出促進</p> <p>○地元密着の訪問販売、宅配販売など高齢者をターゲットにしたビジネスへの企業の進出を促進</p>

	早急に取り組むもの	時間をかけて取り組むもの
<b>2 中心市街地の賑わいの創出</b> (1) コンベンションセンターと文化ホールの建設 (JR久留米駅・六ツ門地区)  (2) 食の産業、食の文化の発信拠点 (六ツ門地区)  (3) 知の集積拠点 (西鉄久留米駅)  (4) 伝統産業・文化のPR拠点 (JR久留米駅)	○ 県南地区の核となるコンベンションセンター・文化ホールの建設  ○ 中心市街地に都市型「道の駅」を開設  ○ 西鉄久留米駅での市民向けの公開講座の実施  ○ 新幹線開業に合わせ、JR久留米駅に地場産業品の展示、伝統工芸品の工房、体験教室、講座、販売所の開設  ○ JR久留米駅に地酒、焼酎のショットバーの開設	○ 医学会等の大規模な会議、見本市、展示会の開催  ○ 食の産業、食の文化拠点（久留米や筑後圏の味を集積した施設）の開設  ○ 西鉄久留米駅に図書館を開設
<b>3 楽しく歩ける都市、回遊性の高い都市の実現</b> (1) 回遊散策道路の整備  (2) 公共交通機関の強化	○ 中心市街地の歩道整備 特に西鉄久留米駅～石橋文化センターの整備  ○ 中心市街地へのコミュニティバスの導入  ○ ペロタクシーの導入	○ 筑後川河川敷の整備
<b>4 住みよいまち久留米のPRの強化</b>	○ 「住みよいまち久留米」のPRを強化	



--	--	--

	<b>早急に取り組むもの</b>	<b>時間をかけて取り組むもの</b>
--	------------------	---------------------

<p><b>ビジョン2</b></p>		
<p><b>5 産業誘致や地場企業の新規参入促進に取り組む</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○企業誘致のための協議会を設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域一体で地場企業の新規産業分野への進出を促進</li> </ul>
<p><b>6 高度医療地域の形成</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○救急医療体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児科救急診断サービスの地域拡大</li> <li>・産科の分野での救急医療体制の開始</li> </ul> </li> <li>○ウォーキングイベントの普及など健康づくりの推進</li> <li>○ちくごスローフードフェスタの継続および拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○住民に対する医療・健康に関する知識普及</li> <li>○学校教育における健康や食についての指導</li> </ul>
<p><b>7 地域一体で農水産業を推進</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農産物の直売所間の連携</li> <li>○農水産物の輸出促進</li> <li>○筑後圏の駅弁、銘菓の開発</li> <li>○農水産業者と菓子メーカー・食品メーカーの連携による商品開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○農業の組織化、規模拡大の推進</li> <li>○地域全体で農水産業のブランド構築</li> </ul>
<p><b>8 伝統工芸の振興</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イベント、祭りを地域一体でPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伝統工芸の異業種間連携の促進</li> </ul>
<p><b>9 将来構想としての大筑後圏</b></p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○さらなる市町村合併を進め、強固な自治体“大筑後圏”を形成</li> </ul>

# 参考資料

参考1 筑後圏 16 市町村の概要

参考2 六角堂プラザの「タウンモビリティ(移動支援サービス)」

参考3 コミュニティバスの成功事例

## 参考1 筑後圏 16 市町村の概要

市町村名	人口	GDP	1次産業	2次産業	3次産業	面積
久留米市	305,948	946,382	17,920	151,310	824,347	229.84
大牟田市	133,788	377,879	2,153	89,051	299,550	81.55
柳川市	75,990	193,965	16,633	39,439	143,632	76.9
八女市	43,154	127,059	6,085	23,566	102,397	98.66
筑後市	48,131	167,331	3,925	70,417	95,634	41.85
大川市	40,330	125,599	3,527	36,450	90,669	33.61
小郡市	57,989	124,603	2,508	20,769	104,646	45.5
うきは市	34,013	83,723	4,111	26,025	57,001	117.55
みやま市	44,384	94,096	7,614	18,425	71,099	105.12
大刀洗町	15,623	42,302	1,945	17,913	22,926	22.83
大木町	14,487	29,111	3,422	7,196	19,348	18.43
黒木町	14,077	27,635	3,951	4,959	19,876	135.49
立花町	12,219	21,153	3,667	4,582	13,758	86.64
広川町	19,890	59,505	3,299	23,824	33,562	37.91
矢部町	1,763	6,218	568	2,543	3,236	80.46
星野村	3,546	9,283	1,175	1,506	6,840	81.28
合計	865,332	2,435,844	82,503	537,975	1,908,521	1293.62

※人口は平成17年9月末現在

※GDP、1次産業、2次産業、3次産業は平成14年度実績で、単位は百万円

※面積の単位はkm<sup>2</sup>

出典:「住民基本台帳」福岡県、「福岡県統計年鑑 平成16年度刊行」福岡県

## 参考2 六角堂プラザの「タウンモビリティ(移動支援サービス)」

「タウンモビリティ」とは久留米市から委託を受けたNPOシニア情報プラザ久留米（商店街、福祉・医療、大学、ボランティア等の関係者が参加）が、六ツ門商店街内の六角堂プラザにおいて、2003年6月から始めた移動支援サービスである。移動支援サービスとは、高齢者や障害者、乳児を抱えた母親など一人では移動することが困難な移動制約者に対して、ボランティアが1回500円で買い物、食事、トイレ、散髪の介助、車イスリフト車による送迎等の支援を行うものである。また同事業では、同利用者のほか、商店街の来街者に対して電動スクーター、車イス、ベビーカーの無料貸し出しも行っている。

タウンモビリティの利用者は月約50名ほどである。しかし、利用者が商店街で買物をする際の金額が一人当たり約5千円というように、移動支援サービスが福祉の向上に留まらず、商業振興に直接役立っている。また、シニア情報プラザ久留米は移動支援サービスに関わるボランティア、利用者会員をそれぞれ「ボランティア会」、「利用者会」として組織化し、利用者とボランティアの食事会、パソコン教室、介護・医療相談など様々なイベントを開催しているが、そのイベントが商店街の賑わいづくりに役立っている。

タウンモビリティの運営財源は利用料金以外に、市からの補助金等であるが、今後、高齢者人口が増加することで、利用が増え、今以上の運営財源が必要になることが予想される。したがって、新たな財源を確保することと、商業、医療・福祉、公共交通機関、公共施設、観光サービス等様々な地域連携によって、タウンモビリティの多様な活用方法を考えることが必要である。

### 久留米市・六角堂プラザ「タウンモビリティ」

実施主体	: 市の委託を受けたNPOシニア情報プラザ久留米
実施日時	: 毎週木・土・日曜日の10時30分から16時まで
利用料金	: 500円 ※会員として登録し、事前予約を行うことが必要
利用例	: 買い物、食事、トイレ、散髪、体験教室へ参加、リフトカーでの送迎等
その他	: 電動スクーターや車イス、ベビーカーの無料貸し出しも行っている

出典：シニア情報プラザ久留米ホームページ、同発行案内パンフ



六角堂プラザで貸し出されている電動スクーター、車イス、ベビーカー

## 参考3 コミュニティバスの成功事例

### ①地域住民主導、運賃以外に企業・個人の寄付で運営(京都市・醍醐コミュニティバス)

醍醐コミュニティバスは、「醍醐地域にコミュニティバスを走らせる市民の会」が平成16年2月から運行を始めたバスである。地域住民が自らバスを運行することになったのは、地下鉄開業時に市営バスが削減され、地区内の移動が不便になったことがきっかけであった。平成13年に自治会など地域関係者が会を結成して以来、開業まで100回以上の説明会・勉強会を行い、バスの導入意義、方法について議論を重ね、市民の手によるバスの運行を実現した。その経緯が示しているように、このバスは行政から補助を受けていない。地域関係者の積極利用＝運賃収入(200円均一)と、企業・個人からの寄付によって成り立っている。寄付額は個人からは年額3～10千円、地域内の商店や企業・団体からは月額9～24千円で、後者はバス停の副名称や時刻表への広告掲載の特典もある。また、幹線道路を主に運行する従来のバスとは異なり、地区中心の地下鉄駅と隣接する商業・公共施設を起点に、中核医療施設、観光地、坂の上の団地、小さな商店が集まったところなど、住宅地をきめ細かく運行するバス路線が設定された。以上の工夫により、地域内の移動が容易になり、地域住民にとって無くてはならない生活基盤となっている。

### ②小型ノンステップバスで、商店街のアーケード内も運行(金沢市・ふらっとバス)

金沢市ふらっとバスは、国の「オムニバスタウン」の指定を受けた金沢市が、平成11年3月から運行を始めたバスである。その導入目的は、城下町特有の狭くて細い道路構造が原因で今までバスの通行ができなかった交通空白地域の移動性向上、高齢者等の外出機会の増加、中心市街地へのアクセス改善等であった。従って、車両は小型のノンステップを採用し、商店街のアーケード内も通行している。バス停間隔は200m、運賃は100円均一、片方向のみに15分間隔で運行している。以上の工夫により、既存バス路線を補完する少量多頻度の巡回路線ができ、中心市街地の移動性が高められている。

### ③地域住民の積極利用により、補助金無しで運行(神戸市・住吉台くるくるバス)

神戸市・住吉台くるくるバスは30年間バス空白地だった六甲山の山麓の住宅地(東灘区住吉台)で、住民の会「東灘交通市民会議」が平成17年1月から運行を始めたバスである。高齢者が安心して住み続けることができるまちにするために、京都市・醍醐と同様に住民が準備組織をつくり、専門家の支援を得ながら何度も議論を重ねた。その結果、住民が自家用車を使わず、バスを積極利用することでバス事業の収支を黒字にし、バス路線を維持する方策を生み出した。従って、運賃は200円均一に設定されるとともに、定期券、回数券はあるが、高齢者割引パス等は発行されていない。以上の工夫により、住民には「マイバス」としての愛着が生まれ、住民の手でバスが守り育てられている。

## 筑後部会の活動記録

日 時 平成 16 年 11 月 9 日 (火) 16:00～18:00  
会 場 筑邦銀行本店  
テーマ 伝統工芸産業について  
講 師 伝統的工芸品産地プロデューサー 山内 眞治氏

日 時 平成 17 年 2 月 22 日 (火) 13:00～20:00  
視察先 森山絃工房、八女伝統工芸館、八女人形会館

日 時 平成 17 年 12 月 5 日 (月) 15:00～19:00  
会 場 ハイネスホテル久留米  
テーマ 地場産業支援～岐阜県の取組みについて～  
講 師 (財)岐阜県産業文化振興事業団  
常務理事 野田 豊氏  
局長兼 TAKUMI 工房運営室長 三好 忠博氏

日 時 平成 18 年 4 月 28 日 (金) 16:00～19:00  
会 場 ハイネスホテル久留米  
テーマ 筑後地域広域流域圏の形成について  
講 師 久留米大学経済学部 教授 駄田井 正氏

日 時 平成 18 年 7 月 11 日 (火) 16:30～19:00  
会 場 ハイネスホテル久留米  
テーマ 地域の繁栄と広域連携～市町村合併の現状と課題～  
講 師 九州大学大学院人間環境学研究院 教授 小川 全夫氏

日 時 平成 18 年 10 月 4 日 (水) 15:00～18:30  
会 場 ハイネスホテル久留米  
テーマ ①筑後川クロスロードの重要性について  
～県境を越えた久留米、小郡、鳥栖、基山の取組み～  
②九州の州都の条件  
講 師 熊本学園大学経済学部 教授 坂上 智哉氏

日 時 平成 18 年 10 月 31 日 (火) 15:00～18:30  
会 場 ハイネスホテル久留米  
テーマ 地域間連携とコミュニティの形成について  
講 師 九州大学大学院人間環境学研究院 教授 竹下 輝和氏

日 時 平成 18 年 12 月 19 日 (火) 15:00～19:15  
会 場 ハイネスホテル久留米  
テーマ 提言案の検討

日 時 平成 19 年 2 月 14 日 (水) 15:00～19:15  
会 場 ハイネスホテル久留米  
テーマ 提言案の検討

日 時 平成 19 年 3 月 23 日 (金) 16:30～20:00  
会 場 ハイネスホテル久留米  
テーマ 提言案の検討

日 時 平成 19 年 4 月 17 日 (火) 16:30～20:00  
会 場 ハイネスホテル久留米  
テーマ 提言案の検討

日 時 平成 19 年 5 月 10 日 (木) 15:00～19:00  
会 場 ハイネスホテル久留米  
テーマ 提言案の検討



## 筑後部会 委員名簿

(敬称略)

部会長	井 手 和 英	(株)筑邦銀行	取締役会長
副部会長	二 又 大 榮	久留米運送(株)	代表取締役社長
副部会長	木 下 茂	(株)喜多屋	代表取締役会長
委 員	赤 司 真 人	(株)福岡銀行	県南地区本部長
委 員	家 入 國 憲	(有)サン・イースト	代表取締役社長
委 員	石 丸 茂 夫	日米ゴム(株)	代表取締役社長
委 員	井 上 芳 治	(株)ブリヂストン久留米工場	工場長
委 員	上 田 保 治	米城ビルディング(株)	代表取締役社長
委 員	梅 野 重 俊	(株)梅の花	代表取締役社長
委 員	江里口 俊 文	グリーンランドリゾート(株)	代表取締役社長
委 員	大 橋 眞 成	筑後信用金庫	理事長
委 員	金 子 泰 大	金子建設(株)	代表取締役社長
委 員	菊 池 康 男	(株)ワイドレジャー	代表取締役社長
委 員	倉 田 正 平	久留米月星商事(株)	代表取締役社長
委 員	古 賀 暉 人	(医)天神会	会長
委 員	佐 藤 清一郎	(株)筑邦銀行	取締役副頭取
委 員	下 川 博	(株)フジキ工芸産業	代表取締役会長
委 員	関 敬 次	大川信用金庫	理事長
委 員	関 弘 文	久留米情報システム(株)	代表取締役社長
委 員	中 川 崇	中川建材(株)	代表取締役社長
委 員	永 利 嘉 浩	オーム乳業(株)	代表取締役社長
委 員	西 村 恭 二	<b>NRA 西日本経営リスク管理指導協会 会長兼理事長</b>	
委 員	橋 本 安 彦	日商保険コンサルティング(株)	代表取締役社長
委 員	畑 野 裁 彦	(株)九州プレシジョン	代表取締役
委 員	平 井 浩一郎	(株)ヒライ	代表取締役
委 員	平 木 詔 二	兼貞物産(株)	代表取締役会長
委 員	前 川 博	(株)筑邦銀行	相談役
委 員	牧之内 繁 男	ローム・アポロ(株)	名誉会長
委 員	水 田 明 義	(株)ニシケン	代表取締役社長
委 員	本 村 郁	(株)ムーンスター	代表取締役社長
委 員	森 昭 典	大電(株)	代表取締役社長
委 員	森 光 実紀雄	三和システム(株)	代表取締役
委 員	山 下 洋	(株)筑邦銀行	取締役頭取
委 員	山 本 善 樹	ウエスタンリース(株)	代表取締役
委 員	横 山 巖	大成ジオテック(株)	代表取締役社長
事務局	森 本 廣	福岡経済同友会	事務局長
事務局	溝 添 真 也	福岡経済同友会	調査役